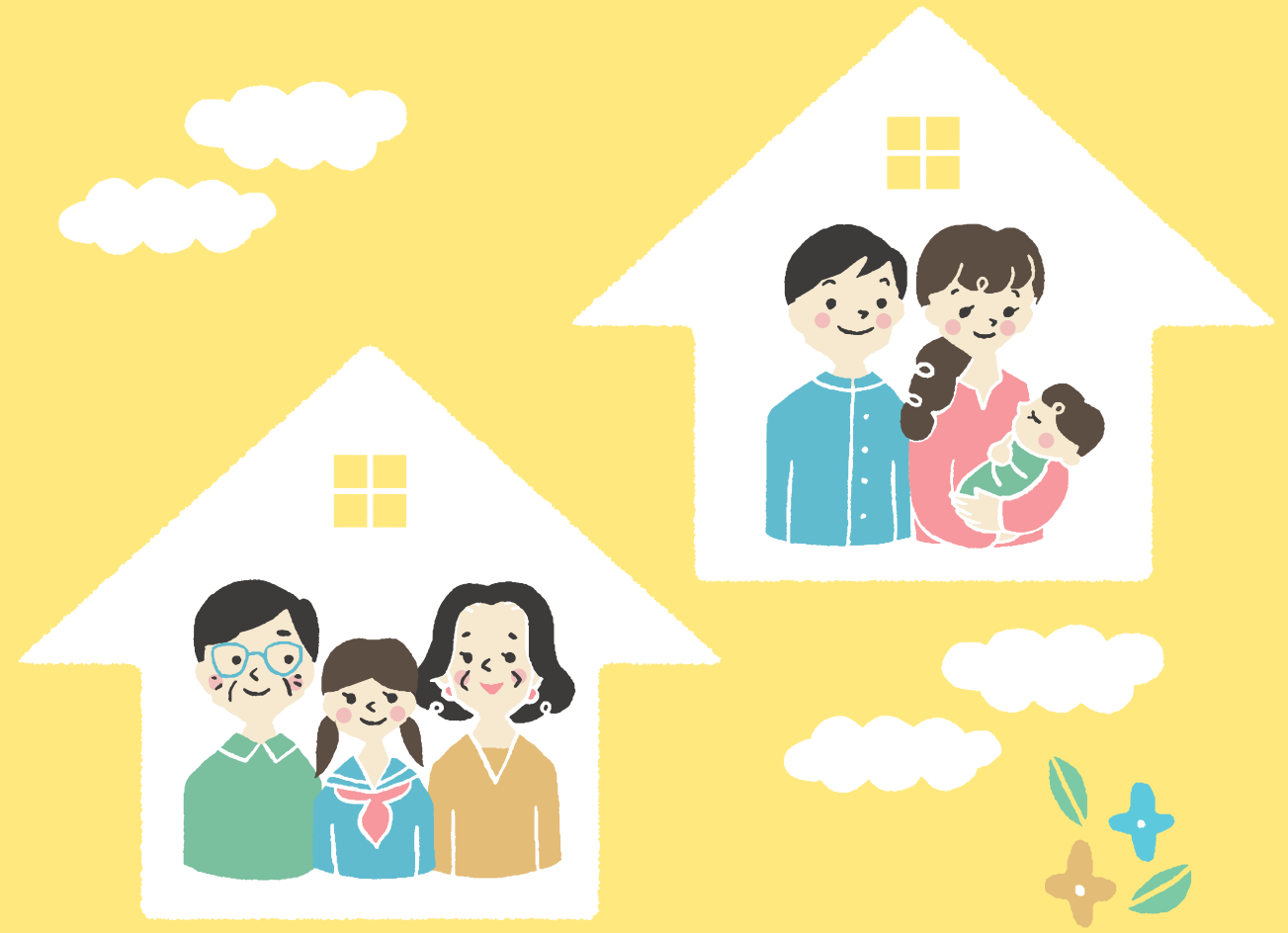


あなたも
里親に
なりませんか!?



里親ってなあに？

山形県には親の病気、経済的な困窮、虐待などにより親と暮らすことのできない子どもたちが約260人います。そんな子どもたちを、一定期間自分の家庭に迎え入れ、愛情をもって健やかに育ててくれる方を「里親」といいます。

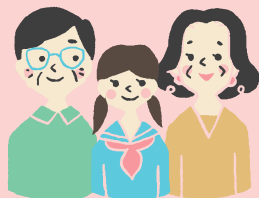


里親の種類ってあるの？

里親の種類には、養育里親、養子縁組里親、専門里親、親族里親の4つがあります。

養育里親

18歳までの子どもを、一定の期間、自分の家庭に受け入れて養育する里親です。養育の期間は数日から数年と様々です。子どもの実親の養育環境が整った場合には、実親の元に帰ります。



養子縁組里親

原則15歳未満の子どもを、特別養子縁組（法的親子関係の成立）を前提として養育する里親です。養子縁組が成立するまで、里親として養育します。



専門里親

虐待により心身に有害な影響を受けた子どもや非行、障がいのある子ども等、専門的なケアを必要とする子どもを養育する里親です。



親族里親

実親（父母）が、死亡や行方不明などで子どもを育てられなくなった場合、児童の扶養義務者及びその配偶者である親族が子どもを養育する里親です。ただし、親族を利用することが適当と判断された場合に限りです。



養子縁組と里親の違いって？

養子縁組制度と里親制度の違い

	養子縁組制度		里親制度
	特別養子縁組	普通養子縁組	
戸籍の表記	長男(長女)	養子(養女)	—
子どもの年齢	原則として15歳未満	制限なし (ただし、育ての親より年下であること)	原則として18歳まで (必要な場合は20歳まで)
迎え入れる親の年齢	原則として25歳以上の夫婦 (ただし、一方が25歳以上であれば、一方は20歳以上でも良い)	20歳以上	制限なし
縁組の成立	家庭裁判所が決定	育ての親と子どもの親権者の同意 (15歳以上は自分の意思で縁組ができる)	児童相談所からの委託
関係の解消(離縁)	原則として認められない	認められる	生みの親の元に戻るか自立する
親子関係	生みの親との親子関係は消滅	生みの親と育ての親の両方に親子関係が存在	生みの親が親権をもち、里親との親子関係はない

里親の役割って？

里親制度を活用すると

特定の大人との
愛着関係・信頼関係

当たり前の生活体験

安心感や
自尊心の
醸成

生きていく
力を培う



「生きる力」になります

安心、甘えの体験が

学びの場として、

信頼関係の形成や



日本女子大学

林 浩康 教授

interview



「社会的養護」という言葉、知っていますか？ 親がいなかったり、親が育てていくことが難しかったりすることも社会的に養育する場です。里親やファミリーホームといった養育者の家庭に子どもを迎え入れる場合と、乳児院や児童養護施設のような集団の中で複数の養育者によって育まれる場合があります。

それぞれに役割があるのですが、こども目線で考えると、里親やファミリーホームは、家庭環境の中で一貫した養育者と生活することで、より深い信頼関係の形成や感情交流が可能となり、「依存体験」をより積めるほか、家庭での「生活体験」の中で学びの機会が多くあります。こどもにとって、里親家庭での、安心して生活できる体験、安心して甘えられる体験が、「生きる力」を育むことにつながります。

どんな人が里親になれるの？



里親になるための特別な資格や経験は必要ありません。

大切なのはあたたかな愛情と子どもによりそう姿勢です。

里親になるための要件

- ✓ 要保護児童^{*}の養育についての理解及び熱意並びに児童に対する豊かな愛情を有していること
- ✓ 経済的に困窮していないこと
- ✓ 県が実施する里親研修を修了したこと
- ✓ 里親及びその同居人が下記の欠格事由に該当しないこと
- ✓ 養子縁組里親を希望する場合には、申請者の年齢が、その申請を行う時点において25歳以上50歳未満であること

※要保護児童(保護者のない児童や、保護者に監護させることが適当でない児童)

欠格事由

- 禁錮以上の刑に処せられ、その執行を終わり、又は執行を受けることがなくなるまでの者
- 児童福祉法、児童買春、児童ポルノに係る行為等の処罰及び児童の保護等に関する法律、児童福祉法施行令第35条の5で定める福祉関係法律の規定により罰金の刑に処され、その執行を終わり、又は執行を受けることがなくなるまでの者
- 児童虐待又は被措置児童等虐待を行った者その他児童の福祉に関し著しく不適当な行為をした者

里親に なるための ステップ



里親として県からの認定を受けるには下記の手続きが必要となります。
いずれも飛ばしたり、順番を変更したりすることはできません。



面会・外出・宿泊などの交流を経て子どもを家庭に迎え入れます



養育に必要な費用の支給

各種サポート

子どもを育てるために必要な生活費、教育費、
医療費などが毎月支給されます。

里親手当

月額

90,000円

+

月額

生活費

52,620円

※令和5年現在(小学生の場合)

山形県では子ども1人1人に「養育支援委員会」を立ちあげ、
里親さんの他、児童相談所や市町村の職員、
地域の里親支援専門相談員、
幼稚園や学校の先生などが定期的に集まり、
一緒に悩んだり、喜びを共有したりしながら、
チームとなって皆で里親養育に取り組んでいます。



里親を支援してくれる仕組み

仕組み
1

里親同士の交流の場
「里親サロン」

仕組み
2

スキルアップのための
「研修」

仕組み
3

先輩里親さんに自宅に来てもらい
養育を支援してもらう
「里親サポーター」

仕組み
4

一時休息したい時に子供を
施設や他の里親に預けることができる
「レスパイトケア」

よくあるご質問

Q 不妊治療中ですが、
里親申請はできますか？

A 不妊治療の経歴は、里親登録の可否に影響しません。ただし、子どもの委託を受ける場合には、夫婦として「家族のかたち」について十分に話し合われ考えがまとまっていることが必要となります。また、妊娠の可能性のある場合、乳幼児の受託は難しいかもしれません。不妊治療後、ご夫婦で今後どのように家族の歴史を紡いでいきたいのかを十分に話し合ったうえで、里親申請を行うことをお勧めします。

Q 里親になるためには一軒家に
居住することが必要ですか？

A 一軒家かどうかに関わらず、子どもが生活するのに十分な広さを確保する必要があります。年齢によっては、子ども専用の部屋が必要ですし、子どもが複数いる場合には男女を別にするなどの配慮も必要です。

Q 子どもがいても里親として
活動することはできますか？

A 実のお子様がいらっしゃる里親さんもいます。もし里親として子どもを迎え入れた場合には、分け隔てなく愛情を注ぎ育てて頂きたいと考えています。お子様が、新しくやってきた里子に、お父さんお母さんをとられてしまうと感じることも多くあります。里親登録の時期についてはご夫婦で十分に御検討いただきたいと思います。また、子どもにもきちんと伝え、家族で話し合っていたいただく必要があります。

Q 「経済的に困窮していない」とは
どのように判断されますか？

A 子どもを迎え入れても生活に困らない程度の収入があることが条件となっています。具体的な所得については、世帯の収入が概ね生活保護基準を上回っていることが条件となります。生活保護基準額は、申請される方の年齢や家族構成により計算が異なります。また、生活の維持に影響を及ぼすような借入れの返済がないことも条件となります。

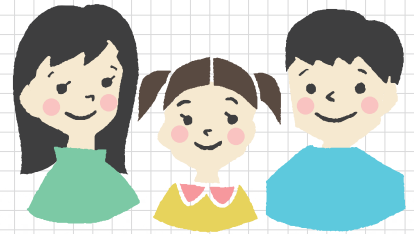
Q 子どもに里子であることを
隠すことができますか？

A できません。たとえ養子縁組里親であっても、戸籍の記載から子どもは事実を知ることができます。また、子どもを産んでくれた実親を否定することは、子どもの存在意義を否定することに繋がってしまい、後から事実を知った子どもは深く傷つくとともに、それまで築いてきた里親との絆も崩れてしまうかもしれません。一方で、子どもに対して、いつ、どのように伝えるべきか悩まれる方も少なくありません。里子とどのように親子関係を築いていくか、その中で実親の存在とどう向き合っていくのかは、研修の際にお話させていただきます。

Q 夫婦のうち、どちらかだけの
里親登録は可能ですか？

A 里親養育にあたっては、里親制度や里親家庭で生活する子どもの十分な理解が必要と考えています。そのため、ご夫婦での登録をお勧めしております。

山形県の里親さん体験談



仕事を引退後、 1人の里子を預かり 養育しています。



SATOOYA
EPISODE

01

山形県在住 鈴木(仮名)さん里親家庭

3人いる実子の子育てが終わり、自身の仕事も引退したのを機に里親登録しました。能力や資格のようなものは何も持っていませんでしたが、「これから夫婦2人、ひなたぼっこして過ごすだけなら里子を迎え入れるのも良いよね」と夫と話していたことが登録のきっかけになりました。それから2年後、幼い子どもを1人預かることに。初めて我が家に来た時はものすごく大泣きされましたが、次第にニコニコした表情も見せるようになり、怖いながらも「ここは安心できる環境だ」と感じてくれるようになってきました。今ではすっかり「抱っこ〜」と言って寄ってくるその子の安心して眠っている姿を見ると、私たちに對する信頼を感じ、いつも愛情が込み上げてきます。子どもや孫たちも、家族の一員としてとても仲良くしてくれています。

当たり前の日常が育む絆

里親が養育できるのは原則18歳まで。いつか家を離れることを考

え、自分のことはなるべく自分でできるように、今のうちから社会との関わり方やお金の計算の仕方などについて教えていこうと考えています。最近洗濯物をたためるようになったのが嬉しくて、褒めてあげているところです。そうやって一緒に暮らしていくうち、不思議なことだんだん自分ですの子を生んだような感覚になってきていて……。子どもとの関係は、血のつながりよりも家庭で過ごす日々の生活にあることを強く感じました。今では里親をされている方々もたくさん増え、私が養育を始めた頃より気軽に相談したり交流できるようになりました。一人じゃない、そう思えることも自分にとって大きな支えとなっています。



山形県で現在、養育里親として活動されている方の体験談です。

里親として、 複数の子どもを 育てました。



SATOOYA
EPISODE

02

山形県在住 佐藤さん里親家庭

孫を持つ私たち夫婦は、テレビで飛び交う児童虐待のニュースにいつも心を痛めていました。「何かお手伝いできることはないだろうか？」そう話していた時に里親制度があることを知り、近くの児童養護施設で働く妻の知り合いにお願いして、施設にいる子どもたちの様子や里親制度についていろいろ教えてもらいました。その後、養育里親へ登録。現在は2名のお子さんをお預かりし、また、これまで3名のお子さんを送り出してきました。今でこそ里親制度に対する認知度は上がっていますが、十数年前までは「全然関係のない子どもを預かるってどうなの?」と言われることもありました。でも、もし川とかプールで溺れている人がいたら、見て見ぬふりなんてできませんよね。きっと何も考えずに手を差し伸べて助けようとすると思うんです。里親になるというのはそういうことなのかなと考えています。

心を開いてくれた時の喜び

保護されるということはやはりそれだけの事情を抱えている子どもたちですから、心の傷には触れないよう配慮しています。ただお客様ではないので、遠慮せず注意することも必要ですし、時には里親・里子の関係を超えて親子ゲンカすることも。お互い心を開いて本音で話しているからこそ起きるものだと思うと、ケンカさえも喜びの一つになります。先日、一番長く同居している子が「学校卒業後、就職したら、お父さん・お母さんに何か買ってあげるからね」と言ってくれた時には、ここまで気の利いた言葉を言えるまでに成長してくれた事に、うれしくて涙があふれてしまいました。子ども達は里親家庭を出た後も、様々なことに立ち向かわなくてはいいけません。それでも社会と関わりを持ちながら頑張って生きて行ってほしい。そのためにできるサポートをこれからも続けて行こうと思います。

全国の里親さんからのアンケート結果

SATOOYA CASE 1

- 現在の年齢..... 54歳
- 里親をはじめた年齢... 48歳

里親をはじめてみようとして 一歩踏み出したきっかけ

ずっと専業主婦だった私は、社会との繋がりを考えた時、「子どもに関わることがしたい」と思っていました。ファミリーサポートの会員登録の講習を受けようと思っていたのですが、なかなか日程が合わず。そんな時に市政より里親募集の記事を目にしました。普段は、何でも積極的にすぐ行動するというタイプではないのですが、その時は気が付くと、里親支援を行う機関（フォスタリング機関）に電話をしていました。今になって考えると、それまで（里親）を身近なものだと感じたことが一度もなかった。記事に使われていた赤ちゃんの写真がとても可愛くて心に残った、そんな単純な理由だったのかもしれませんが。初めは「とりあえず話だけでも聞いてみよう」という軽い気持ちだったのですが、たくさんのお会いに感謝しながら、いつの間にか講習を受け、認定を受け、今年で6年目となりました。

里親のやりがい

私にとって（里親のやりがい）は、子どもたちの日々の成長をそばで見守ることができることです。何気ない普通の毎日を一緒に過ごす中で「寝返りができた」「歯が生えてきた」「つかまり立ちができた」「一歩あるいた」など、貴重な場面に立ち会えることも大きな喜びです。また同時に、実子の成長を感じることもできます。泣いているといつの間にか抱っこしてくれたり、ミルクの作り方が上手になっていたり、月齢に合わせたあやし方をしてくれたり。家族それぞれの成長を感じることができることは、里親をしていて本当に良かったと思えることのひとつで

す。私のもとを離れる時、これから先のことを考えると不安のない状況ばかりではありません。だから一緒にいる時は、いっぱい抱きしめようと思っています。かわいい笑顔で、小さな手で、ぎゅっと抱きしめ返してくれた時は、本当にいとおしさを感じることができる瞬間です。

どんな時が大変か、 またどう乗り越えているか

私は今まで、0才から2才までの乳幼児のお預かりをしてきました。生後5日目の新生児を病院へお迎えに行ったこともあります。大変だと感じることは、やはり体調面です。実子以上に気を付け、いつもと違う様子が少しでも見られた場合は、フォスタリング機関や子ども総合相談センターの方に相談し、かかりつけの小児科を受診するようにしています。離乳食で、初めて口にする物を食べさせる時も毎回緊張します。また、里親になろうと思った時には考えたこともなかったのですが、保護や委託が解除になりお別れをする時の淋しさは、何度経験しても慣れることができません。そんな時一番の支えは、同じ経験をされている里親のみなさんやフォスタリング機関のみなさんです。一緒に思い話をしたり、時には涙したり。普段から交流の場があることで、日常の悩み事などの相談もできとてもありがたく思っています。

里親に関心のある方へ

里親のカたちは人それぞれ様々です。今の生活を大きく変えてしまわないといけないということはないと思います。今すぐ里親になることはできないけれど...長い期間預かりはできないけれど...そんな風に少しでも気になっているのであれば、ぜひ一歩踏み出してみてください。まずは話を聞くことから。かわいい笑顔の子どもたちを社会全体で守ってあげたいと思います。

SATOOYA CASE 2

- 現在の年齢..... 52歳
- 里親をはじめた年齢... 50歳

里親をはじめてみようとして 一歩踏み出したきっかけ

自分には、里親になるのは絶対無理かなと思っていましたが、妻の熱意に負けて始めたのがきっかけです。

里親のやりがい

里子ちゃんが毎日楽しく生活できているか、言いたいことを我慢していないかななどいろいろ考えながら、毎日手探りで頑張っています。甘えてくるときや、感謝の気持ちを出してくれる時は、やはりこちらもすごくうれしです。里

子ちゃんがいる事で、里親も一緒に違う世界を見ることができ、成長できると思います。

どんな時が大変か、 またどう乗り越えているか

最初は、やはり泣き叫ぶ時の対処法が分からず大変でした。今は少しだけお互いに信頼関係ができてきていると思うので、なんとか対処できているかな？後で落ち着いてから、ゆっくり話を聞くようにしています。

里親に関心のある方へ

少しでも、里親に関心があるならばやってみてください。つらい事以上に楽しいこともあります。私は里親になってよかったと思います。

SATOOYA CASE 3

- 現在の年齢..... 67歳
- 里親をはじめた年齢... 37歳

里親をはじめてみようとして 一歩踏み出したきっかけ

不妊治療を受けましたが残念ながら子どもに恵まれませんでした。どうしても子育てがしたくて児童相談所の里親制度説明を聞き、養子縁組希望の里親登録をしました。

里親のやりがい

子どもの笑顔が増えたり、子どもの成

長がとても楽しみでした。

どんな時が大変か、 またどう乗り越えているか

子どもの自立が大変です。里親仲間が沢山愚痴を聞いてくれました。

里親に関心のある方へ

全国に里親仲間が沢山います。一緒に子育てしませんか。悲しい事も楽しい事も沢山ありますが、振り返ると子どもの笑顔しか思いだせません。子どもの笑顔が増えたり、子どもの成長がとても楽しみでした。

SATOOYA CASE 4

- 現在の年齢..... 59歳
- 里親をはじめた年齢... 39歳

里親をはじめてみようとして 一歩踏み出したきっかけ

尊敬できる大先輩から、「保護された児童の受け入れ先が飽和状態だ」と、FAXを頂きました。我が家は、実子が3人居ました。赤ちゃん以外なら、子ども同士で遊ぶので、うちの子と同じ待遇で良ければ、増えても大丈夫だと思い、子どもたちに了解をもらい、養育里親を始めました。

里親のやりがい

子ども達の心身の成長を間近かで、見守れる事。子ども以上に、自分たちが成長出来る事。

どんな時が大変か、 またどう乗り越えているか

障がいのある子どもたちを委託する事は、理解が無いと大変だと思います。

最初は「なぜ怒るのか」「なぜ、なぜ」と自身をせめてしまったり、答えが出ない、戸惑いがありました。子どもが幼いと、怒っている理由を説明できないことがあり、暴れたり、物を投げて壊したり。今は、そんな時、「聞かない」「責めない」と決めて、スキンシップタイムにしています。とにかく膝に抱いて「大丈夫」を繰り返し、頭や背中をなでなでします。

本人が、落ち着いても、自分が子どもを許せて「大好き」と思うまで、なでなでします。一緒に寝てしまったこともあります。膝から降ろす時には、二人で笑顔になれます。

里親に関心のある方へ

良い親であろう、お手本であろう。とても大事なことでありますが、親も人間です。我々は24時間労働です。過度に思い込むと、長続きしません、息切れします。心は、肩の力を抜いて、普段着で居ましょう。少し「あっ忘れてた」「あっ失敗しちゃった」と言う方が、子どもたちは、心配して、お手伝いしてくれる子になると思います。

SATOOYA CASE 5

- 現在の年齢..... 62歳
- 里親をはじめた年齢... 47歳

里親をはじめてみようとして 一歩踏み出したきっかけ

保護者を亡くした兄弟の面倒をみるようになった当時、実子がいた関係で里親になるのを躊躇していたら、県職員さんが「里親になると子どもがスムーズに学校に通えます」といわれ、子どもの里親のやりがい

里親のやりがい

大変なことも多いですが、子どもたちがいろいろな体験、経験を通して成長する時に一緒にいることは、なんともうれしい、かけがえのないことだと思います。

どんな時が大変か、 またどう乗り越えているか

子どもの成長期にみんな通る、心と体のアンバランスや出自等が影響してのフラッシュバック、発達障害での「生きにくさ」を感じる子どもの葛藤等にたちあがりしたときです。

一人で抱え込まず、養育者、関係者等と意見交換や協同作業で、時間はかかっても、よい方向へ向くことへ努力を惜しまないことです。

里親に関心のある方へ

子どもたちの役に立ちたいと思ったら、「親になる、親代わりに・・・」とはじめから肩を張らずに。社会的養護の子どもたちと一緒に歩む、並んで歩くくらいの気持ちから始めるとよいと思います。同じ大人がずっと子どもに寄り添うことは、子どもを安心安全な環境におくことの一と考えます。一人の子どもから、一緒に歩んでみませんか？

SATOOYA CASE 6

- 現在の年齢..... 51歳
- 里親をはじめた年齢... 47歳

里親をはじめてみようよ 一步踏み出したきっかけ

テレビから流れてくる虐待のニュースに毎回憤慨していたところ、県外に住んでいる姉が里親をやり始め、実際に話を聞き、子ども達に会い、自分にもできるんだ!と思った事がきっかけです。

里親のやりがい

まだ何人も養育させていただいたわけではありませんが、子ども達が笑っている時、元気に遊んでいる時、美味しいご飯を食べている時など、普通に生活している時に幸せや、やりがいを感じます。なんといっても、「大好き」とハグしてくれた時はやって良かったと思う瞬間です。子ども達をお預かり

してすぐは(特に一時保護)何もわからない状態からですので、好きな物や、こだわりや、本人の性格を知る事がまず苦労する所です。私はまずは食事から好きな物を探ります。食べ物から入ると話も入りやすいですし、お腹も満たされる状態なのでストレスを感じないで会話もできます。

里親に関心のある方へ

毎日、子どもの虐待のニュースや、亡くなったニュースを見て胸が苦しくなったり、少しでも憤りを感じる方は、一度でもいいので話を聞いてみると良いと思います。毎年虐待相談数は上がっています!自分ごときが動いた所でもなにも変わらない。なんて思わないで下さい。私もそうですが、子ども達の笑顔を守る事につながる!そして、自分の心の糧にもなると思っています。

SATOOYA CASE 7

- 現在の年齢..... 51歳
- 里親をはじめた年齢... 47歳

里親をはじめてみようよ 一步踏み出したきっかけ

夫婦2人だけの人生も楽しかったです。けれど、世の中には大人の助けを必要とする子どもたちが居て、自分たちには関係ないだとか、誰かが助けるだろうとか、いつまでも目を逸らし続ける事は出来ませんでした。幼い頃の自分を思い出し、成長する過程で、周りの大人たちが支えてくれた経験があって今の自分があります。大人になって余裕が出来た今だからこそ、自分が受けた恩を返す時であると思います。ふとした折に観た「この世界の片隅に」という映画に心を打たれました。映画のラストで、主人公のすずが親を失った子どもの手を握り、3人並ぶシーンが頭から離れませんでした。あとになって、映画を思い出しては自分にも何か出来る事はないかと模索した結果、たどり着いたのが里親という道です。

里親のやりがい

家族の繋がりを通じて、里子の成長を目にする機会を得られるということです。血の繋がりがなければこそ、努力なしに家族は成立しません。里子と里親の双方が真摯に向き合う事で、家族が成立します。当たり前の事を気づかさせてくれます。家族の大切さを思い出させてくれます。言うまでもなく、里親家庭には多くの困難が伴います。時には家庭崩壊の危機すら訪れます。けれども、望んで里親となった自分たちと、大人たちの都合に翻弄される里子の苦勞を思えば、如何ほどの事でしょうか。現状に必死で適応しようとする里子を傍で見て、何も感じないなどあり

得ず、里子が無事成長できるよう全力を尽くす。これこそが里親のやりがいです。

どんな時が大変か、 またどう乗り越えているか

里親家庭のスタートは、お互い積み重ねが無い状態から始まります。恋人同士が結婚して夫婦になり、家族を築くのは訳が違います。だから、最初が一番大きな壁があります。全くの他人同士が家族になるのです。しかも、里子にとっては望んだ訳ではありません。お互いのカルチャーをすり合わせる事が先ず必要になるのです。そんな前提で、里親登録を済ませて直ぐに委託を受けた里子には、知的障害があり発達障害もあります。子どもを育てる事自体が初めてなのに、ハードル高い気がします。里子が抱える特性に応じてサポートするのは大変です。里子の心のケアも必要。当然、夫婦揃って心身共に消耗必至。たちまち、里親里子共にストレスMAX。乗り越えるには里親家庭全員の協力が必要です。但し、どんな時であれ、夫婦のコミュニケーションが一番大事。ここを怠ると、普段どんなに仲の良い夫婦であっても崩壊します。夫婦だから分り合えるという慢心や甘えは禁物...です。

里親に関心のある方へ

里親を始めようすると、心配されるが故に周りからは反対されます。又、里親を始めれば、多くの失敗をします。想定と違ったなんてのは山ほどあります。里親を始めなければ、辛い思いや苦勞をする事もないでしょう。でも、里親を必要とする子どもたちはそこに居るので、だから、里親を始めた事に後悔はしていません。里親は素晴らしい体験ばかりでは無いですが、里子が見せてくれる笑顔は何よりの報酬です。

SATOOYA CASE 8

- 現在の年齢..... 64歳
- 里親をはじめた年齢... 49歳

里親をはじめてみようよ 一步踏み出したきっかけ

実子がいなかったため主人の父からの勧めがあって里親登録しました。主人には預かった里子をちゃんと愛情を注げるのかと確認し、夫婦二人で話し合い登録を決めました。やはり子どもを育てたいという思いと、子どもともある生活をしたかったです。

里親のやりがい

最近、特別養子縁組した娘も大きくなり、娘が私達夫婦が里子を預かってもいいという成長を見せてくれたので、思春期の男の子を預かりました。一時保護で姉妹を短期間預かりました。その子たちがうちでは少しでも辛いことを忘れ、明るく楽しく過ごしてくれることをただただ考えて預りました。明るく笑顔がたくさんあるととても嬉しそうですね。学校に行くとき「いってらっしゃ〜」帰ってきたら「おかえり〜」と声をかけ

るだけでも子どもたちは安心するのではないのでしょうか。

どんな時が大変か、 またどう乗り越えているか

やはり里子を手放してしまったときは自分の力のなさを悔やみ、どうしたら良かったのかなどと落ち込んでしまうこともあります。そういうときは、ベテランの先輩里親さんに話を聞いてもらったりして、励ましていただいたりしています。里親会で研修会やサロン、行事を行って仲良くなり、里親同士の繋がりがもろありがたいです。

里親に関心のある方へ

里親は簡単なことではないのは確かです。が、子どもたちが温かい家庭を求めています。様々な年齢の子どもたちに温かい手を差し伸べる里親が足りていません。動機がどうであれ、一步を踏み出して欲しいです。最近、支援機関も充実してきています。里親さんの仲間もいます。里親同士がお互い支え合ってこそ里親として頑張れると思います。

SATOOYA CASE 9

- 現在の年齢..... 49歳
- 里親をはじめた年齢... 43歳

里親をはじめてみようよ 一步踏み出したきっかけ

子どもが好きだからです。

里親のやりがい

仕草や言葉、愛らしい姿に癒されて、元気をもらい成長と一緒に感じる

日々を過ごせることです。他人を傷つける子はいろんな意味で大変さを感じます。児相担当者に伝え、対応を聞くようにしています。

里親に関心のある方へ

子どもが好きな気持ちがあれば、毎日可愛い笑顔に癒されるので、難しく考えずにはじめの一步を踏み出してみてください。

SATOOYA CASE 10

- 現在の年齢..... 46歳
- 里親をはじめた年齢... 41歳

里親をはじめてみようよ 一步踏み出したきっかけ

夫婦で児童養護施設の職員をしていました。その中で、社会的養護の子どもたちは家庭で養育すべきではないかと思い、実子はいるものの、養育里親を始めました。その後、妻の方は仕事を辞めて専従となりファミリーホームを始めました。

里親のやりがい

家庭という場所をベースにして、一緒に生活しながら養育ができています。子どもの成長を間近で見られ、施設と違って、交代も休みもない継続した養育ができていくことにとてもやりがい

を感じています。

どんな時が大変か、 またどう乗り越えているか

一時保護していた子どもたちが、不安な面持ちでやってきて、慣れてきた頃にまた別の場所に移送になってしまうことが、精神的になんともやるせなく、慣れるしかないのですが、その後の子どもたちのことを考えると苦しくなりません。スタッフや里親会の仲間たちに話すことで、気持ちを吐き出すようにしています。

里親に関心のある方へ

関心を持ってくださってありがとうございます。里親になる以外にもできる支援はたくさんあります。家庭で暮らせないのは子どもの責任ではありません。みんな子どもたちのために協力していきましょう。

子ども家庭支援センター チェリー

(県が里親に関する事業を委託している機関です。)

〒991-0002 寒河江市字下河原 224-1 (寒河江学園内)

TEL: 0237-84-7111

FAX: 0237-84-7112

山形県福祉相談センター (中央児童相談所)

〒990-0031 山形市十日町一丁目 6-6

TEL: 023-627-1195

FAX: 023-627-1114

庄内児童相談所

〒997-0013 鶴岡市道形町 49-6

TEL: 0235-22-0790

FAX: 0235-22-0791



山形県 里親 検索

